

研究・調査報告書

報告書番号	担当
570	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption is associated with high concentrations of urinary hydroxytyrosol. アルコール消費と尿ヒドロキシチロソール濃度の上昇は関連している	
執筆者	
Schroder H, de la Torre R, Estruch R, Corella D, Martinez-Gonzalez MA, Salas-Salvado J, Ros E, Aros F, Flores G, Civit E, Farre M, Fiol M, Vila J, Fernandez-Crehuet J, Ruiz-Gutierrez V, Lapetra J, Saez G, Covas MI	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Clin Nutr. 90(5): 1329-1335 (2009)	
キーワード	
ヒドロキシチロソール、ポリフェノール、抗酸化作用、アルコール	
要 旨	
<p>背景： 以前、赤ワインには高い抗酸化作用を持つポリフェノールであるヒドロキシチロソールが含まれていて、1杯の赤ワインの摂取で、予想以上の量のヒドロキシチロソールが尿で回収されたことを報告した。この研究では、ワインのアルコールは、内因性のヒドロキシチロソール産生を亢進させる可能性について検討した。</p> <p>目的と計画： アルコール消費と尿ヒドロキシチロソール濃度との関連を評価する。この研究は、PREvencion con DIeta MEDiterrane (PREDIMED) 試験 [心血管系疾患の一次予防に関する地中海食の有効性を検討する介入試験] の部分サンプルからの基礎データを用いた横断的研究である。被験者は心血管系疾患の発症危険性の高い1045名 (55-80歳) である。アルコール消費は検証された食物摂取頻度調査によって評価した。尿のヒドロキシチロソールとエチルグルクロン酸 (アルコール消費のバイオマーカー) を測定した。</p> <p>結果： 尿エチルグルクロン酸濃度はアルコールやワインの消費量と直接的に相関していた ($P<0.001$)。また、男性と女性の両方で、尿エチルグルクロン酸濃度と尿ヒドロキシチロソール濃度との間の直接的な関連性が観察された ($P<0.001$)。アルコール消費の程度は、男性のアルコール摂取者で、尿ヒドロキシチロソールレベルと直接的な関連性が観られた ($P<0.001$)。多変量ロジスティック回帰解析の結果は、上昇したヒドロキシチロソール濃度はアルコール消費の増加と有意な線型傾向を示した ($P<0.05$)。男性では1日20g (2単位) 以上、また、女性では1日10g (1単位) 以上の飲酒で、上昇したヒドロキシチロソールと有意な相関が認められた ($P<0.05$)。</p> <p>結論： この研究は、個体群レベルで尿ヒドロキシチロソール濃度とアルコール消費との直接的な相関について初めて示したものである。ヒトや動物で、ワインはヒドロキシチロソールの供給源であり、アルコールは (生体内の) 内因性ヒドロキシチロソールの産生増進物質として作用する。</p>	